

氏名： SCHWARTZ LAURE (Laure Schwartz-Arenales)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系 比較日本学研究中心  
職名： 准教授  
学位： 博士 (文学) / Doctor (PhD)  
URL： <http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>  
E-mail： [schwartz.laure@ocha.ac.jp](mailto:schwartz.laure@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

日本美術史 / 仏教 / 美術館 / 欧米における日本学 / 極東美術コレクション  
Japanese Art History / Buddhism / Museum / Western Japanology / Eastern Asian Art Collection

#### ◆主要業績

- ・ロール・シュワルツ＝アレナレス “Le Bois sacré du Nirvâna -Essai d’ interprétation d’ un chef-d’ oeuvre de la peinture bouddhique japonaise” (「涅槃の聖なる森 - 日本仏教絵画の傑作への試論 -」) La Question de l’ art en Asie, Ed.Presses de l’ Université Paris Sorbonne (PUPS), Collection Asie, 2008 年
- ・ガストン・ミジョンとルーヴル美術館の中の日本—知と技の継承、融合、変革—  
お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター年報 第5号 (2009年)
- ・2008年7月6日 お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター第9回国際日本学シンポジウム セッションII 総合テーマ：テーマ：源氏物語の千年—日本と欧米における源氏絵の旅— (企画者 司会)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

フランスでの日本の美術品の発見というものを、この地における日本美術への評価、分析の発端となった様々な文化的背景の中に捉えなおしながら、ルーヴル美術館初の日本コレクションの学芸員であったガストン・ミジョンの果たした役割について研究の焦点を当てた。3回に渡るフランス滞在では、国立古文書館、ルーヴル美術館学芸員図書館、及びギメ美術館といった様々な研究施設や美術館の学芸員の協力により、ミジョンという人物に関してのみならず、ルーヴル美術館における最初の日本美術コレクションの歴史に関する非常に多くの情報や資料を得ることができた。日本と同様フランスでもほとんどが未刊であるこれらの新資料から、特にアンシャン・レジーム期の著名な高級家具職人であったミジョンの祖先に関する知識を深め、そしてルーヴル美術館の初代日本美術部門学芸員であったガストン・ミジョンがフランスにおける日本美術の評価や展示に向けてとった行動に、ミジョン家に伝わる家業が何かしらの影響を与えた可能性があることを示すことができた。

また、平安時代の傑作「応徳涅槃図」(高野山霊宝館所蔵)の研究を続け、星辰信仰や陰陽道信仰と密接に関わった当時の風潮とこの仏教絵画との関係性を明らかにするための解釈を深めた。

Parallel to my activities within the Center of Japanese Comparative Studies, I have concentrated my research on the history of the studies relative to Japanese Art in Europe. By situating in particular the discover of Japanese art in France within the different contexts and cultural circumstances having influenced their appreciation and analyze (Orientalist tradition, Japonism, methods comparatists, encyclopedic approach, apparition of the first extreme-oriental art museums), I insisted on the role of Gaston Migeon, First Curator of Japanese art collection at Louvre Museum. During different research trips in France (Archives Nationales, Musée du Louvre, Musée Guimet), I discovered many documents, yet unpublished, concerning the ancestors of Gaston Migeon, very famous cabinet makers (ébénistes) of the French Old Regime. By translating and analyzing these documents, I have been trying to show the influence of this familial and artistic heritage on the work and the conceptions of Gaston Migeon regarding Japanese art.

Besides, in continuation with my research on the Ôtoku nehan zu, masterpiece of the Heian Period preserved at the Reihôkan Museum (Mount Kôya), I tried to develop my interpretation intending to show how this Buddhist Painting could have been connected with the Onmyô-dô and astrological beliefs.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

海外における日本学の歴史と現在を大きなテーマとする授業では、特に欧米においての日本美術史の誕生と発展を紹介、分析することが目標となる。昨年度は、ルーヴル美術館日本美術コレクション初代学芸員であるガストン・ミジョンの功績を取り上げた授業の中で、19世紀末フランスに現れた新聞記事、そして参加学生のために今回初めて和訳された古文書を多く紹介し、この日本美術コレクションの内容と、ルーヴル美術館内でのそれらの段階的な展示に伴った芸術的、文化的背景について着目した。美術館内の様々な展示室に少しずつ作品が展示されていった経緯、日本美術を愛する当時の著名なコレクターらの影響力や彼らの果たした役割について取り上げながら、これらの作品が19世紀末から20世紀前半にかけてフランスでいかに受け入れられ、評価、研究されたかを検証した。

また、アンシャン・レジームの著名な高級家具職人であったミジョン家の祖先の存在が、ガストン・ミジョンの日本美術への眼差しと評価、そして装飾芸術というものへの関わりにおいて、どれだけ大きな役割を果たし、影響を与えたかということに焦点を当てた。

演習では、参加学生がそれぞれの研究を、国境と学問領域を超えた展望の中で位置付け、方向付けをできるように、例年通り海外における日本学の現状について紹介し、特に昨年度はフランスとアメリカにおける日本文学と日本美術にまつわる展覧会と出版物に重点を置いた。

Devoted to the presentation of the history of Japanese Studies Overseas, my teaching intends to analyze the development of Japanese Art history especially in Europe and America.

This year, as part of my courses focalized on the work of Gaston Migeon (1861-1930), first Curator of the Far Eastern Art collections at the Louvre Museum, thanks to the presentation of many archives and articles edited in french newspapers from the end of 19th century and translated for the first time in Japanese language for the students, we have been studying the content of these collections as well as the historical context of their display at Musée du Louvre. By clarifying the way as these collections were gradually acquired by the Musée du Louvre and by examining the role of the Japanese Art collectors, we also have considered how one hundred years ago French people have evaluated and interpreted Japanese culture. Finally we tried to show the influence of the ancestors of Gaston Migeon, famous cabinet makers of the Old Regime, on his appreciation of Japanese art which was associated with his action in favor of the promotion of Decorative Arts in general.

As part of my seminars, in order to encourage the students to orient their research in the way of an international and comparative perspective, we have been trying to provide them an overview of Japanese Studies Overseas, especially in the fields of Japanese Literature and Art in France and United States.

## ◆研究計画

フランスを始めとするヨーロッパにおける日本美術の普及にガストン・ミジョンが果たした役割についての研究の一環として、本年度はミジョンがルーヴル美術館のコレクションの充実化のために入手、あるいは寄贈した主な作品に特に焦点をあてる。それらの作品の芸術的な観点からみた特徴、西洋の日本美術コレクションの中でのそれらの位置を明らかにすると同時に、あまり知られていないルーヴル美術館、ギメ美術館におけるこれらの作品の展示史に着目する。ルーヴル美術館の所蔵目録や展覧会カタログ、美術市場に関する様々な資料の検証、そして19世紀末から21世紀初頭にかけて新聞などに記載された記事の収集を通して、これらの作品の芸術的、歴史的価値を浮き彫りにし、ヨーロッパにおいて専門家だけでなく一般大衆によってどのように受け入れられ、分析されたのかを見ていく。

また、「応徳涅槃図」に関する研究を発展させ、その現段階を発表し、この作品を占星術と陰陽道に結びつけた新しい見方の下に捉えなおしていく。

共同研究の可能性：

\* お茶の水女子大学比較日本学研究センター/INALCO・コレージュ・ド・フランス フランス国立図書館など (研究プロジェクト名：欧米における日本学 ——日本美術研究を中心に——)

\* お茶の水女子大学/パリ第7大学・フランス国立高等研究院 日本学：本学の新たな構築の試み

## ◆メッセージ

2004年6月にお茶の水女子大学比較日本学研究センター助教授に着任して以来、フランス人研究者としての日本美術史に対する考察を伝え、大学や美術館での研究・勤務経験を生かして、お茶の水女子大学の国際学術交流に貢献できることは大変光栄である。講義や、比較日本学研究センターが主催する国内外での様々な活動(講演会、セミナー、シンポジウム、出版)を通して、海外で力強く発展し続ける日本学に接し、学生が研究テーマを発見し、これを深めていけるように促していきたい。日本美術に関する海外の文献の紹介と解説、海外の主要な日本学研究施設の訪問、講義や比較日本学研究センター主催の国際セミナー等は、我々の目的とするところであり、関心のある学生と共に追究していきたいと願っている。